## 89. 公共の場でのよその子への注意は

**【問い】**公共の場所で，よその子の気になる行いを見るにつけ，注意してあげようかな，それとも，おせっかいかなと一瞬ためらってしまうことがあります。そんな弱腰ではと思うのですが。

**【答え】**私たちは他人の子に対しては，どうせひとごとだものと，自分にかかわりのないことには無関心のようです。欧米では，見知らぬ他人とのふれ合いの中でも，いましめ合いながら公徳心を高めている様子を耳にします。パリのある公園を歩いていると，ひとりの男の子が池に石を投げて遊んでいました。それを見た労働者風の人が，その子のそばに立ってさりげなく語りかけました。「君は1つ2つの石と思うだろうが，どの子もみんなそう思って投げこんだら，どうなるのか，やがて，この池は石で埋まってしまうのではないか」と…。私たちは，とかく自分の子には，きびしいしつけをしますが，よその子には見て見ぬふりをし，批判的にその場をのがれてしまうところに問題がありそうです。先日，乗り合わせた電車で数人の小学生が，周囲にとんちゃくなくはしゃぎ，しかもズックのまま座席にすわり，ふざけっこを始めました。すると，隣り合わせた青年が立ちあがり，何か話しているようでした。急に静まった様子から察すると，そのことに対する注意だったのでしょう。別れぎわに，にっこり声をかけ，子供たちもそれにこたえている姿に接し，一服の清涼剤ともなりました。この子供たちも，やがて，おとなになり，あの青年のような行為ができることを期待しながら，見送ったのでした。子供は生来，いたずらっ子です。前の労働者風の人や，あの時の青年のように，さりげないあたたかい注意が，子供の公徳心を高めていく動機につながるものと思います。